

平成25年8月～26年3月横浜市病院協会事業報告

1 救急医療対策(公1-1)

(1) 平成22年度に開始された拠点病院方式を中心とした横浜市救急医療体制に基づき、引き続き当協会及び会員病院は救急医療の提供に積極的に取り組んだ。

二次救急医療に対応する各病院の構成区分は、拠点病院Aが11病院、拠点病院Bが13病院、合わせて24病院、輪番参加病院数は23病院となっている。

横浜市二次救急医療体制の実施にあたり、各会員病院は最大限参画、協力するとともに、病院協会として二次輪番応需(内科・外科・小児科)の必要な調整、とりまとめを行い、救急実績を集約して市に報告した。

第2～第4四半期(7月～3月)の患者数は次のとおりであった。
(年度計)

拠点病院A	: 103,337人	136,102人
拠点病院B	: 71,979人	93,925人
輪番病院(夜間)	: 4,009人	5,347人
輪番病院(休日)	: 1,685人	2,020人
小児救急拠点病院	: 23,585人	31,266人

(2) 心疾患、脳血管疾患、産科、整形外科等の救急医療に取り組んだ。

(3) 「横浜市救急医療検討会」に参画し、中心的な役割を担った。

(4) 横浜市の救急搬送受入病院支援モデル事業に積極的に関与し、実施した。

2 災害時医療対策(公1-2)

(1) 各区の災害医療連絡会議に会員病院が加わり、情報及び意見交換を行った。

(2) 横浜市災害医療連絡会議に参画し、市と協会が協働して災害時医療に対応する体制を確保した。

(3) 横浜市病院協会として、横浜市防災会議のメンバーに加わり、横浜市における防災上の課題解決に取り組んだ。

3 医療情報の収集、発信及び広報(公1-3、他)

- (1) 協会のホームページ「ヨコハマ医療の扉」の適正かつ円滑な運用に努めた。
平成25年8月～26年3月のホームページ運用状況：
ホームページアクセス数：87,313件（360件/日）
時間外診療受付病院診療所アクセス数：6,521件（26.8件/日）
産科医療機関情報案内アクセス数：800件（3.3件/日）
- (2) 市民の利便性を考慮し、各種案内機能の更新及び医療機関向け情報をホームページに掲載した。また、「産科医療機関のご案内」を適宜更新するとともに「求人情報」によって、会員病院の効率化に寄与した。
- (3) 協会報第51号、第52号を発行した。
- (4) 協会ニュース速報を7回(NO.187～NO.193)発行した。
- (5) 保健・医療・福祉に関する情報を随時、会員病院に提供した。

4 地域医療連携の推進(公1-4)

- (1) ホームページ等の活用により、会員病院の医療提供体制拡充のためのサポート役を努めるとともに、医師会等、医療関係団体との連携を強化する等、地域医療体制の充実向上を図った。
- (2) 横浜市在宅療養連携推進協議会に参画し、病院と在宅療養の連携強化策の検討を行った。
- (3) 横浜市が行った機能別病床数調査・患者流動調査に協力した。

5 行政、医療機関団体等との連携強化及び政策提言(公1、他)

- (1) 「横浜市保健医療協議会」に参画し、医療行政に対して必要な提言や要望を行った。
- (2) 「横浜市医療安全推進協議会」に参画し、横浜市の医療安全窓口との連携強化を図った。
- (3) 神奈川県の実情に応じて「ライフイノベーション地域協議会」に参加した。
- (4) 横浜市医師会の地域医療事業部会、医療福祉事業部会、勤務

医事業部会において議論に加わるとともに、各夜間急病センター運営委員会に参画し、地域医療向上に向けた研究、検討を行った。

- (5) 県立病院、市立大学病院等、公的病院の運営に係る委員会、幹事会に参加した。

6 学術研究、講演会及び研修会開催(公2-1)

- (1) 市民講演会を平成26年3月3日(月)に開催した。
 テーマ「夢をあきらめないで～喘息はハンディじゃない」
 講師：清水 宏保氏(長野オリンピック金メダリスト)
 小倉 高志氏(神奈川県立循環器呼吸器病センター副院長)
 参加者：150人

7 医療従事者の確保、定着促進(公2-2)

- (1) 当協会ホームページに常時「市内医療機関求人情報」を掲載した。
 市内医療機関求人情報、8月～3月のアクセス数
 2,817件(11.6件/日)

8 看護専門学校(公3)

- (1) 学生数

(単位：人)

学 生	在籍者数 (H25年8月1日)	退学者 数	原級留 置者数	進級又は卒業生 (H26年3月末)
1年生	85(7)	3(0)	4(0)	78(7)
2年生	86(11)	3(0)	8(2)	75(9)
3年生	77(10)	0	6(2)	卒業生 71(8)
総 数	248(28)	6(0)	18(4)	224(24)

* () は内数で男性数

(2) 平成 26 年度入学試験結果

(単位：人)

			試験日	受験者	合格者	入学者
特別入試	高校生	指定校	11月2日	4	4	4
		公募制	11月2日	22	10	9
	社会人		11月2日	94	29	24
一般入試	第Ⅰ期		1月9日	133	40	28
	第Ⅱ期		3月13日	40	14	14

(3) 第 17 回卒業生（平成 26 年 3 月卒業）の就職状況

(単位：人)

病院への就職		進学	その他	卒業生合計
横浜市内	横浜市外			
66	3	0	2	71

(4) 第 103 回国家試験受験結果（試験日 2 月 16 日、合格発表 3 月 25 日）

(単位：人)

区分	受験者	合格者	合格率	(参考：全国平均)
新卒者	71	71	100%	95.2%
既卒者	7	6	85.7%	42.7%
合計	78	77	98.7%	89.8%

(5) 主な学校行事

- 平成 25 年 8 月 6 日 学校説明会・見学会（一日看護体験も実施）
- 10 月 1 日 看護学生のつどい
- 11 月 2 日 特別入学試験 合格発表：11 月 8 日
- 11 月 8 日 戴帽式
- 平成 26 年 1 月 9 日 第Ⅰ期入学試験 合格発表：1 月 16 日
- 3 月 5 日 特別講演会「看護学生のメンタルヘルス」
講師：橋本 佐由理氏
- 3 月 7 日 卒業式 卒業生：71 名
- 3 月 13 日 第Ⅱ期入学試験 合格発表：3 月 18 日

- (6) 会議・委員会・研修会等
 - ア 実習指導者夏期研修会：平成 25 年 8 月 27 日
 - イ 講師会議：平成 26 年 3 月 20 日
 - ウ 学校運営会議：毎月 1 回程度開催
 - エ 入試委員会：毎月 1 回程度実施
 - オ その他に成績審査会, カリキュラム委員会, 実習委員会, 学生指導委員会等様々な学内委員会を実施
- (7) 看護師国家試験対策
 - ア 国家試験対策セミナーに参加する等、全教員のノウハウ向上とその活用
 - イ 模擬試験の実施（4 回）
 - ウ 外部専門講師による学内補講
 - エ 学生の学力等に応じた個別支援体制の強化と予備校講座の活用
 - オ 既卒受験者への個別指導等による継続的支援
- (8) 学生募集の取組
 - ア 学校説明会・一日看護体験と予約制個別学校説明会の開催
 - イ ホームページにより学校情報の発信

9 収益事業(収)

- (1) 看護職者賠償保険の取りまとめを行った。
(63 病院；延 3,045 人)
- (2) 看護専門学校近接駐車場の管理運営を行った。
- (3) 看護学校過去入試問題集の販売を行った。
- (4) 平成 26 年 3 月から横浜スタジアム医務室の診療受託事業を開始した。

10 医療従事者の顕彰、福利厚生の実施(他)

- (1) 随時、会員の慶弔に協会として対応した。
- (2) 会員親睦に係る懇親会、新年祝賀会を開催した。
- (3) 協会から神奈川県、横浜市に対して表彰の推薦を行った。

11 管理運営その他(管理)

- (1) 会員数（平成 26 年 3 月 31 日現在）：106
- (2) 公益社団法人移行後、初となる臨時総会を平成 25 年 9 月 25 日に開催した。
臨時総会に続き、公益社団法人移行祝賀会を、横浜ロイヤルパークホテルにて開催した。
- (3) 理事会を 7 回開催した。
- (4) 常任理事会を 6 回開催した。
- (5) 部会等の開催
地域医療、広報、研修等にかかる各種部会を必要に応じ、随時開催した。
- (6) 訴訟関係
 - ① 神奈川県健康福祉経営協同組合他 1 名を被告とする不当利得返還等請求事件については、東京高裁において控訴審係争中である。
 - ② 当協会会長個人及び当協会を被告とする損害賠償請求事件については、原告が最高裁へ上告したが、平成 26 年 1 月 30 日上告棄却の判決が下り、協会側の勝訴が確定した。